

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2496 号

Efficacy of Erector Spinae Plane Block after Trunk Surgery: A Stratified Randomized Observer-Blinded Comparative Study

体幹手術に対する脊柱起立筋膜面ブロックの効果：層別無作為化観察者盲検比較試験

久米村 正輝（くめむら まさてる）

博士（医学）

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、体幹手術（腹部、乳房、脊椎）の術後鎮痛に対する脊柱起立筋膜面ブロック（以下 ESPB）の効果について、層別無作為化観察者盲検比較試験にて 48 時間全体の鎮痛効果を検討した。

2018 年 6 月 20 日から 2019 年 2 月 7 日までの間に順天堂大学附属静岡病院で腹部手術あるいは乳房手術、もしくは脊椎手術を受けた 20 歳以上の患者を対象とした。患者は、ESPB を受ける群（ESPB 群）と受けない群（非 ESPB 群）に分けた。主要評価項目として手術後 0、3、6、12、24、48 時間後の数値評価スケール（NRS）スコアを記録し、術後 48 時間全体での NRS を両群で比較した。副次評価項目として副作用の有無を記録した。

解析対象は ESPB 群 51 例、非 ESPB 群 59 例であった。術後 48 時間の NRS は ESPB 群の方が非 ESPB 群よりも有意に低かった。吐き気を訴えたのは各群 1 名であった。四肢のしびれやかゆみはいずれの患者にも認められなかった。

以上より、本論文は ESPB が体幹手術（腹部、乳房、脊椎）の術後鎮痛に対して周術期全体を通して鎮痛効果があることを初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。